

編集後記

■気温の寒暖の差が激しくなっておりますが、いかがお過ごしでしょうか。通常より遅くなってしまいましたが、22巻1号をお届けいたします。

■まず、お詫びしないとイケないのですが、例年1号に掲載してきた昨年度時間生物学会奨励賞の先生方の総説、こちらの不手際でお願いが遅くなってしまい、次号掲載の運びとなりました。楽しみにされておられた方々、受賞者の先生方にお詫び申し上げます。次号にご期待頂きますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

■今回の総説は二つ。ES細胞、iPS細胞で概日リズムが停止していることを発見され、分化と時計という生命の根本的な側面に新たな地平を切り開かれた八木田先生による、迫力ある見事な解説。そして、気分障害と概日時計の関係が、いまどの程度分かっているのか、研究の最前線を見通しよく纏めてくださった元村先生による解説。どちらもとても読み応えのある文章をご堪能ください。

■そして、今回の研究室だよりは増渕先生による、一見飄々としているようで笑いのセンスが随所に散りばめられた珠玉のエッセイ。いや、さすがです。毎回コラムを書いていただきたいくらいです。

■近藤孝男先生には、恩師の太田行人先生について書いていただきました。お亡くなりになったのが2年前になります。少し間が空きましたが、太田先生の風格のある凛とした研究の姿勢が、暖かな師弟愛とともにじんわり伝わってきて感動的な文章です。ぜひじっくりお読みいただきたいと思います。

■今号の表紙は、メディアアートの分野で知る人ぞ知る奇才として知られる飯沢未央さんの作品です。両方とも広義の時間生物学に関係のある作品で、心臓の拍動あるいは細胞間相互作用を介した自己組織化を扱いつつ、独自の切り口でプログラミング、ハードウェアデザインと実装を提示したプロジェクトです。非常に生物学的な作品と言ってもよいと思いますが、それだけではなく、同時にアートならではの斬新な視点の転換をもたらす優れた作品だと思います。基本的に「動きもの」であり、体感型の作品なので、静止画では十分魅力が伝わりにくいと思います。作者の言葉のところに明記した、Youtubeの動画に是非アクセスして、作動しているところを見ていただきたいと思います。

時間生物学 Vol. 22, No. 1 (2016)

平成28年6月31日発行

発行：日本時間生物学会 (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsc/index.html>)

(事務局) 〒464-8601 名古屋市瑞穂区田辺通3-1
名古屋市立大学大学院薬学研究科・薬学部
神経薬理学分野 桑和彦研究室内
Tel/Fax : 052-836-3676

(編集局) 〒162-8480 東京都新宿区若松町2-2
早稲田大学先端生命医科学研究センター
(TWIns) 1F 岩崎秀雄研究室内

Tel : 03-5369-7317 Email : hideo-iwasaki@waseda.jp

(印刷所) 名古屋大学消費生活協同組合 印刷・情報サービス部